

文化しま

第41号
[2022年3月]

【発行・編集】
色麻町文化協会
☎0229-65-3110
(色麻町公民館内)
会長 川村保夫



小さな自然を簡単に楽しむことができるビオトープ。ビオトープ愛好会では、メダカを中心にビオトープ作りに取り組んでいます。



色麻町の歴史 町指定文化財 船形神社「木造十二神将立像」

世代間でつなぐ歴史と文化

文化しかまの発行に寄せて



文化協会 会長 川村 保夫

私が原稿を書いている今は、世界中が冬季オリンピックに盛り上がり、連日熱戦が繰り広げられているときです。私も日本の代表選手やチームの戦いを見て、その姿に勇気と感動に触れることができました。オリンピックという舞台で最高のパフォーマンスをするためには、かなりのプレッシャーがあるが故に、試合後の選手同士がお互いを讃え合う姿からは国境を越えた深い友情があることも知ることができました。オリンピックは短い期間ではありますが、人々を一つにし、勝利の達成と偉大さを世界中へ届けてくれました。本当に感動が広がる戦いでした。

さて、令和元年度の総会で落合洋子氏の後を受けて会長に就任して早三年が過ぎました。コロナウィルスの終息、生活習慣の変化など、まだまだ予測が難しい状況が続くことが想定され、言うまでもなく当文化協会の活動も大きな影響を受けております。各団体の通常の活動も思うようにできず、協会の一大イベントでもある「さなぷり芸能大会」や「町民文化祭」など

はことごとく中止に追い込まれました。しかし、このような時こそ、文化・芸術活動の継続と発展に向けて、困難な環境を跳ね返す「ピンチをチャンスに変える」発想を共有していくことが大切であると考えています。

昨今は社会や経済の変化によって、地域社会における人と人の関係は希薄化し、人と人の距離は拡大していく状況にあります。今の時期だからこそ文化・芸術を推進する活動をとおし、人と人が繋がりをもち、生き甲斐を感じる社会を構築していくことが最重要であると思います。

現在の文化協会は29団体で構成されており、団体の活動意欲はなかなかのもので、まだまだ頑張れると思っています。とは言え、会員の高齢化は深刻で、若年層の文化団体の加入が急務の課題でもあります。このたびの文化しかまでも団体活動の紹介と併せ、裏面には団体紹介も行っておりますので、ご興味のある方は事務局までご相談ください。

今後これまでの伝統をつなぎ、さらに新しい発展に向けて当文化協会の活動に尽力してまいりたいと思います。会員各位の知恵とご理解ご協力を願ってやみません。

せせらぎ

歌壇【特選歌】

令和四年一月十五日選

命令と号令に支配されていた
不幸な時代の再来は「ノー」

天野 辰夫

ひと片の雲なき今日のこの空は
独り居なればすべて吾がもの

佐藤 宮子

新刊の本とどきたり峡の家の
朝の光にページをひらく

千葉 修子

ハンドルをボンと叩いて「ありがとう」
運転五十年今日で卒業

早坂とし子

手縫いしてマスク百枚作りたり
コロナ防止と惚け防止にと

浅野 はつ

春色の香りこぼれる寄せ植えの
桜草えらぶ友の誕生日

佐藤美智子

今日も又「大丈夫か」と孫の声
コロナ禍おきて電話増えたり

佐藤知恵子

福島の観音様にマスクだと、
テレビにみつっ笑ってしまう

小松 きよ

習慣となる検温を今朝も終え
施設清掃の勤め路急ぐ

小松 れい子

雪代のいきほふ流れ聞きあつつ
〈中村哲〉をきみは言ひ初む

石川 銅

川柳クラブ「田園」

会員作品

戦争はしてはならない白い米

早坂 実里

七転び家族の繋ぐ手で八起き

佐藤 遊子

あの日から無策が溜めた汚染水

遠距離を手紙で心通わせる

鈴木せい子

太っ腹その意気大きな人となる

秋なのねつるべ落としの
日が暮れる

戸叶 松子

たどたどし孫の手紙は宝物

コロナ禍で米の消費も懸念され
あちこちが痛む生きている証です

小松 きよ

太樟のひとすゝ芸は身を助け
おれ流を貫き通し悔いがない

野の花がいつぱいへき地校の四季

畑山 護

県北部管内

文化財

巡回パネル展

【第7回】

宮城県北部教育事務所が主管となり、大崎及び栗原圏域の各市町に伝承されている民俗や芸能等の文化的所産の魅力を発信し、先人たちが、暮らしの中から作りあげた文化に触れることで、文化振興と伝承を目的とした巡回パネル展が管内8会場において令和3年10月21日(木)～令和4年3月9日(木)まで公開されました。

色麻町においては、公民館を会場に令和4年1月13日(木)～2月3日(木)まで展示されましたのでご紹介いたします。



大崎市

「春藤流謡曲(しゅんとりゅうようきょく)」

大崎市田尻大貫新田ノ目集落に伝わる春藤流謡曲は、江戸時代に流行した流派の一つで、御乱舞方と呼ばれる能楽を専門に行う武士をとおして地域に伝承されてきたものです。明治以降になると、謡曲を習得することは農村部の成年男子にとって、成人した大人と認められる第一歩とされ、小寒から大寒に移る冬の最も寒い時期に「寒稽古」と呼ばれる稽古に参加し習得に努めます。「寒稽古」は厳しい中にも、稽古を通して、先輩から地域に伝わる風習などを学ぶ機会ともなり、歴代の指導者の果たした役割は大きいものでした。伝承は昭和37年頃に一時途絶えましたが、昭和52年に「春藤流謡曲保存会鉢の木会」を発足したことにより、現在に継承しています。



栗原市

「石尊神社火伏せ祭り」

栗原市若柳武鎗(わかやなぎむやり)にある石尊(せきそん)神社の創建は宝徳年間と伝えられ、日本武尊(やまとたけるのみこと)の御像が祀られています。これは、相模(さがみ)国(現・神奈川県伊勢原市)の大山(雨降山)(あふりやま)にある阿夫利(あふり)神社から勧請(かんじょう)したものとされています。地域には御像に関する伝説がいくつもあり、それらは共通して御像が諸々の災難、特に大火から地域を守ってくれたと伝えられています。元治元年(1864)2月にお宮を建立して祀り、それ以降、旧暦2月12日を祭日として、祭礼と水冠りの祭りが連綿と続いてきました。火伏せ祭りでは、腰藁を着けた下帯姿の厄男たちが、厳しい寒さの中水をかぶり、家々に水をかけ、自分の厄払いをしながら、各家の火伏せを祈願します。子ども神輿や鶏舞、御神楽や八鹿(やつしか)踊りも出演します。現在は3月2日曜日の例大祭に行われ、この頃から、寒さが和らぎ、春の気配を感じさせることから、県北へ春を呼ぶ祭りとされています。



色麻町

「船形神社木造十二神将立像」

小栗山地区の船形神社の社殿に安置されていた「木造十二神将立像」です。十二神将は、葉師如来およびその信仰者を守護するとされる十二体の武神で、昼夜の十二の時、十二の月、または十二の方位を守るとされ、それぞれに干支が当てはめられています。船形神社の十二神将像の頭部にも、干支を表す獣面や獣体がこつています。上段左から、宮毘羅大将(みやひらだいていしやう)、伐折羅大将(はさしやう)、迷企羅大将(めきしやう)、安底羅大将(あんちしやう)、須彌羅大将(すみしやう)、珊底羅大将(さんちしやう)、下段左から、因達羅大将(いんだしやう)、波夷羅大将(はいしやう)、摩虎羅大将(まこしやう)、招杜羅大将(しやうとらしやう)、毘羯羅大将(ひかしやう)、招杜羅大将(しやうとらしやう)。



加美町

「宮崎獅子舞」

宮崎獅子舞は加美町麓に所在する熊野神社の祭礼にあたり、御神霊の通り道を清めるため神輿の列の先頭で舞うなど、要所で舞を奉納してきました。平成8年に町指定無形民俗文化財に指定されています。熊野神社は元応2年(1320年)に紀州熊野本社から勧請されたと伝わっています。その際に海路で暴風に遭い一度は失われた御神体ですが、桃生郡深谷庄浜市(現在の東松島市浜市)の海に、獅子頭に乗った姿で漂着したと伝えられています。獅子頭が御神体と直接結びつき、護持する関係にある例は他にほとんどありません。舞は八つの演目(大幕/駆け出し/山落し/怒り/歯喰い/骨返し/蝶々取り/獅子愛し)で構成されており、二人立ちの獅子頭がこれを舞います。四方を警戒しつつ山から出てきた獅子子が、威勢よく駆け出し荒れ狂う様や、蝶々と戯れる姿、山の神に手なづけられる様子などが表現されます。



涌谷町

「竹駒神社絵馬」

涌谷町上郡にある竹駒神社には、数百枚を数える絵馬が奉納されています。絵馬の由来は、古代の人々が神に祈願するときは神馬とされる生きた馬を神社に奉納していましたが、生きた馬を奉納できない人々が、代わりに馬の絵を描いた木板を奉納するようになったと云われています。同神社の絵馬には、100匹の犬が描かれたものや馬の絵や字があるもの、かぶの絵に「蚤安全のため」と書かれたもの、歌舞伎や武学問を題材にしたものなど、多種多様な絵馬があります。絵馬は江戸時代以降のもので、奉納者は現涌谷町域の人だけでなく、現美里町・大崎市・栗原市域の人々もいました。豊富な絵柄の絵馬は、人々の祈願や感謝が人それぞれであることや竹駒神社が古くから信仰されてきたこと、そして宮城県北部地域における信仰の広がりを感じてくれます。



美里町

「朝日壇の板碑とみずいぼ神様」

美里町萩塚(おぎそね)の「朝日壇の板碑(いたび)」は、地藏菩薩を意味する梵字が刻まれた、弘安2年(1279)建立の町内で2番目に古い板碑です。石巻市稲井付近で採れる稲井石で作られています。板碑の建立には財力、権力が不可欠なため、当時この地域に有力な豪族がいたことが分かります。読み取れる文字から、亡き父の供養のために建立したと考えられています。また、いつの頃からか、この板碑は地域の人々から「御手水(おみづ)」の水をいぼに付けて拝むといぼが「御手水」と信じられ、神社でないにも関わらず「みずいぼ神様」として親しまれるようになりました。さらに願掛けの際に水やお菓子等を供える習わしも生まれ、板碑前に供えられる水が途絶えることはありません。今なお、そのご利益を求めて、広く参拝者が訪れています。



郷土学習「色麻学」がスタートしました

郷土学習「色麻学」実施委員会アドバイザー 山形大学名誉教授 佐々木 正彦

皆さん、「色麻学」を知っていますか。

「色麻学」とは、歴史・産業・環境・民俗文化といったいろいろな角度から、郷土色麻について学ぶ活動を言います。世代によって、分野によって、「色麻学」の活動の範囲は、ほぼ無限に広がります。

2021(令和3)年度は、新型コロナウイルスの感染を避けるためもあり、色麻学の「試行」の年度ととらえ、ひとつの活動に絞ることにしました。モデルケースとして、歴史の分野から「荒川堰の歴史について学ぶ」を昨年の11月13日(土)に開催しました。成人を対象に参加を募り、参加者は22人で、全員マスクをしソーシャルディスタンスを保って行われました。前半の活動として、色麻町文化財保護審査会の浦山利定さんと、色麻町歴史訪

ね歩き会の千葉剛久さんから、身近な生活や遊びの中の「荒川堰」と歴史的な遺産としての「荒川堰」について講話をいただき、「そうだったんだ」と「知り、学ぶ」ことができました。江戸時代に1期工事として、荒川(現花川)の除地区から現大衡村の針地区まで、そして、第2期工事として志田郡までの延長が行われたことを学ぶことができました。また、第2期工事に合わせて、水量の確保のため、鳴瀬川鹿原地区から取水して長谷川、保野川を経由して荒川(花川)に水を落とすための工事が行われたということ

を学びました。



熱心に聞き入る参加者の皆さん



千葉剛久さん 江戸時代の「荒川堰」工事の歴史的意義についての講演



浦山利定さん「遊び・生活」の中の「荒川堰」についての講演



更なる学びにつなげる「創る」のステップとして現地視察を行いました。Seeing is believing (「百聞は一見にしかず」)をあげるまでもなく、「見る」ことは、学んだ内容の定着を促すのはもちろんのことですが、さらに学ぶ意欲をかきたてることにつながります。

現地視察

花川・除地区の用水取り入れ口
護岸工事でコンクリートや水門はできているが場所自体は江戸時代から変わっていない

現地視察

「荒川堰」の用水の取り入れ口
写真の左側が「荒川堰」。右奥が花川(当時は荒川)



今回の試行としての色麻学の活動の実施は、参加者からも、大変楽しく学べた、という感想をいただきました。「色麻学」のモデルケースとしていい活動となりました。

私たちは、育ったふるさと色麻について確かにいろいろなことを知っています。しかし、私たちが知っていることは、このふるさと色麻が持っている特質の極々わずかです。そう思いませんか。だからこそ、わからないことを知り学ぶことが大事であり、また、ひとつの学びがさらに発展した学びにつながることに「わくわく感」が活動を支えています。

「色麻学」はまさに「ふるさと再発見」の活動であると言えます。



現地視察

色麻町手倉地区の水門

水管理の役人が江戸時代にはいたという

「色麻学」として実施する学習プログラムは、来年度以降、徐々に増えていくと考えられますが、実施に向けて、いくつかの留意点を設けています。主な点は左記のとおりです。

○イベント消化型、ノルマ消化型になりがちであるが、そうならないために自主的な学びの意識が必要である。

○楽しいだけではなく、深く学ぶ機会であることを忘れないことが大切である。

○活動（事業）が「実感する・肌で感じる」活動という視点も含め、体験型学習の可能性を大事にしたい。

○学ぶ側が求めるテーマの設定を可能とする手だてを検討すべきである。例えば、学習者に対して「アンケート」をとり新しい活動を取り入れる環境を作ることが望ましい。

○やってよかったと思える活動にしたい。学習者が学

びがいのある学習でありたい。つまらない活動なら、時間の無駄とも言える。事後のアンケートの実施の必要性がこの点からもある。

○他地域との交流や、昔やっていた遊びや行事の掘り起しなどの色麻学の学習プログラム構築において、型にはまらず、やりながら、考える「色麻学」でありたい。

○「色麻学」のすべての活動で、活動ごとに、毎回、「色麻学改善アンケート」を実施し、活動の評価・改善に役立てていくことが大切である。

今回の「荒川堰の歴史について学ぶ」が「色麻学」として成功裏に実施できたのは、お二人の講師（色麻学では「ファシリテーター」（参加者が学習しやすいように支援していただく方）と呼ぶ。）の方々の熱心なサポートがあったからであることはもちろんですが、参加者の方々の熱意さによるところがあります。

最後に「事後アンケート」を紹介します。

事後アンケート

▶ 先人達の熱い知恵と努力に感銘しました。

▶ 今後とも色麻学を継続し、埋もれている色麻町の歴史等を学んでいきたい。

▶ 勉強会後、視察研修があるのは学んだことを直接体感できて素晴らしいと思います。

▶ 民俗文化が失われていく速度が益々早くなっていると思う。記憶にも記録にもしつかり残せるような研修を行ってください。

▶ とても楽しくすばらしい研修でした。スタッフの皆さんありがとうございました。

▶ 荒川堰の用水配分が加美郡が0.2%、大崎市（志田郡）が99%ということに驚いている。

「荒川堰の歴史について学ぶ」第2弾、そして、今後の「色麻学」の展開にご期待ください。

色麻歴史訪ね歩き会 現地調査

R3.11.27

現地調査報告の前に簡単に訪ね歩き会を紹介します。かつて「文化財愛好会」が文化協会のなかで活動していました。文化財をこよなく愛し、研究もしてきた会ですが、会員数の減少などもあって、惜しまれつつも解散してしまいました。その後、もう少し歴史や文化財を勉強したい、知識を広めたいという方々から、新たな会の設立をとの機運が高まり、平成20年に「色麻歴史訪ね歩き会」が発足いたしました。その後、会員の高齢化などもあって休止期間もありましたが、現在15名で活動しています。会員の中には「きどっこ」のスペシャリスト・古民家調査隊員・欠入研究第一者などが名をつらね、毎回テーマごとに勉強会を開催しています。

さて、今回の現地調査は昨年に引き続き小栗山地区の調査を行いました。色麻町で今シーズンの初雪ではないかと思われる曇（みぞれ）まじりの天気で、寒さに震えながらぬかるみに足を取られながらも目的地を目指しました。総勢10名。最初の目的地は「旧

小栗山亜炭採掘場」です。

色麻町史には、この亜炭層を「本町付近では最も稼働価値の高い亜炭層」と紹介しています。戦前戦後、亜炭はここで採掘され商品化もしていました。隣町の旧三本木町には質量とも追いつかず採算が合わずに閉山となったとのこと。このほかにも、町内では高根・平沢・除地区などで亜炭の採掘が行われてい



亜炭層

ました。

調査隊はマイクロバスで船形山林道を保野川沿いに進み、途中「滝の沢橋」で下車。

ここから歩いて進む。その山道は、かつて亜炭を採取していたときの馬車を通った道（馬車道）である。と今回の案内人である早坂一郎会長（小栗山在住）から説明がありました。途中、川が流れていてそれを尾根づたいに歩くと、絶壁の斜面が現れ、ここがかつての亜炭採掘場だと知りました。斜面をよく見ると、黒々とした亜炭層が露出しているのがわかります。比較的若い会員が斜面を駆け上がりナタをふりかざして亜炭を採取してきました。

今から約500万年前の第三紀鮮新世に属する地層です。亜炭はかつて台所やお風呂で燃料として利用していたものですが、現在では利用価値がなくなりました。ただ仙台市秋保では、仙台亜炭を「埋もれ木細工」としてペンダントなどを制作している工房もあります。

今後、亜炭の利用価値など

も探ってみるのもいいかもしれません。

続いて調査隊が向かったのは「滝の沢滝」。

今から250年前の江戸時代の「風土記書出」には「一不動堂右ハ小栗山滝中段洞之内ニ相立梵字斗有之……」とあり、滝（長さは7mくらい）の中段の岩に梵字が彫られているそうです。さらに滝のなかには、「不動明王」も鎮座。昭和12年正月28日・「願主 浅野藤右工門 世話人 早坂勇四郎」の銘もあつたそうです。（水量



滝の沢滝



不動明王

が多く、確認できず。）

近くには、薬師如来を祀っている船形神社も存在することから、修験者たちの霊場であつた可能性が高いと思われます。

亜炭や滝の沢など初めて目にした会員も多く「大変勉強になった」「また来てみたい」という感想がありました。

町民のみなさん、是非、本会に入会して、いっしょに歴史や文化財を勉強してみませんか。詳しくは公民館まで（文責…色麻歴史訪ね歩き会事務局）

地域芸能に触れ、文化・芸能に親しむ機会の創出

令和4年1月23日(日)色麻町農村環境改善センターにおいて町婦人会事業「新年の集い」〜文化・芸能に親しもう〜が開催された。千葉会長からはゆつくり楽しめる内容を企画したので、日常生活を送る中ではなかなか味わうことのできない文化・芸能を、ご堪能くださいという挨拶がありました。

音が奏でる力強さと優しさの魅力

最初の演目は色麻町一の関出身の保科利伸さんが主宰する和笛コンテンポラリーバンド「音伽屋」による風唄でした。和笛から奏でられる透明で清らかな音色、華やかな指打ち音がとても特徴的でした。2曲目は戦国時代の壮大な映画音楽をイメージし作曲されたということで、情緒的な楽曲であるがゆえに、キーボードやドブログターとのアンサンブルは曲に一段と深みと力強さが加わり、観客全員の心に響き渡り、心を動かされた瞬間でした。風のよう



艶やかな舞、津軽のリズム軽快に刻む

舞踊・民謡・歌謡、スコップ三味線のエンターテイメントを心ゆくまで堪能

和光流二代目家元、和光佳穂ことと和光流代表指導者星佳友子さんをはじめ、外5名の出演者による舞踊・民謡、歌謡、スコップ三味線が披露されました。

オーブニングでは力強い曲調にあわせ長年培ってきた熟練の舞いを見事に披露してくれました。続いてのスコップ三味線では軽快なリズムを刻みながら、圧倒的なパフォーマンスに時間を忘れるほどの迫力で会場内を魅了しました。

また、福がたくさん訪れますようにと秋田大黒舞も披露され、会場内から大きな拍手が送られていました。



団体紹介

せせらぎ短歌会

代表 石川 鋼

- 次々と走り過ぎ行く自動車の運転する人皆前を向く 奥村晃作
- ねむり放題なまけ放題たべ放題 たまにはいいさ七十だもの 青木昭子
- 手伝ってくれる息子がいることの幸せ包む餃子の時間 体 万智

三首の歌は全て歌集に載っている歌です。どうですか。これなら「私にもつくれそう。」そうです。歌の決まりは三十一文字(音)で詠むことだけです。歌を詠もうとすると、毎日の生活が活き活きと見えてきます。

さあ、始めましょう。

ト音きょうの会

代表 小川きょう子

音楽は日常生活のさまざまな場面、たくさんの人たちの情動を動かし、支援を行い、ゆるやかな発達を促す重要な役割を担う可能性を秘めています。

現在、ト音きょうの会の会員は、年少児から大人まで。練習形態は、個人レッスン、または少人数でのグループレッスンで、演奏会前やイベント等参加前は合同練習会を行い、歌やピアノ、アンサンブル、ハンドベルなどで様々なジャンルを演奏しています。

演奏する人も、聴く人もみんなの心が元気になるよう、これからは音楽の力を信じて、音楽の心を伝えていく活動を続けていきたいと思っています。みんなで一緒に音楽を奏でたい人を随時募集中です。



色麻町パソコン愛好会

代表 加藤 頼子

町の情報機器等活用能力向上支援業務として行われていたパソコン講習の修了に伴い、私たち同期十数名を中心に、その時の講師であった故佐藤文洋先生に講師を依頼し、平成26年より発足しました。

途中より阿部先生にも依頼し、ワードやエクセル他に応用、その時期に合わせて年賀状、カレンダー、決算報告書作成等々を教えていただいております。繰り返し、繰り返しの勉強、和気あいあいの愛好会です。

活動は毎月第2・第4金曜日の午後からです。ご興味のある方は是非お立ち寄りください。

らくらくパッチワーク

代表 安藤きくみ

私たちはらくらくパッチワーク教室は、八十代現役バリバリの年代から十四名の教室で、毎月第一、第三曜日に改善センターで活動しています。長い人で三十年以上も活動しており、どうしてもいかに悩んでいる時も、速く解決してしまいます。

小銭入れ、ポーチ、バック、タペストリーなど長時間かかる作品や短時間でできる作品など、できあがるとうれしくなり、今度はとイメージが膨らみ、またつくりたくなる。それが長く続くことに繋がっているのだと思います。

手を動かしながら、孫のこと、世の中のできごと、野菜づくり、料理など話は尽きません。和気あいあい楽しく時間が過ぎ、元気をもらえます。

初めてでも、経験がなくてもみんなが先生なので大丈夫です。このような会でするので、みなさん一度、のぞいてみてください。

エアロビクス

代表 鈴木 幸子

平成23年度にサークルとして発足し、文化協会の仲間入りさせて頂いた。講師に加美町の伊藤由美子先生をお迎えして本格的にエアロビクスを楽しんでいます。体を動かすだけでなく、先生の「体にいい話」もあって、すぐに日々の生活に役立つ中身の濃いサークル活動です。

ちなみに年齢は関係なく無理なく取り組めるので、初めての方でも大丈夫！興味のある方は、是非仲間入りしてみませんか？

美の追求ではないので、上手にできなくても大丈夫です。鏡がないので安心して踊れるのもおすすめの一つです。ストレス解消に効果的で、動いた次の日に、体重は変わらなくても、体が軽くなります。

エアロビクスで体を動かすことが大好きな仲間と一緒に、体にいい「有酸素運動」を体験してみませんか？



令和3年度

色麻町文化協会加入団体一覧

No.	部 門	団 体 名	代 表 者 名	地 区 名	活 動・練 習 日 等
1	郷 土 芸 能	カッププギ色麻踊り保存会	佐々木 りえ子	高 根	イベント前に練習日を 設定し、イベントに参加
2		仙北麦つき踊り保存会	中 山 としゑ	下黒沢	8月～12月の期間：月1回
3	短 歌	せせらぎ短歌	石 川 鋼	志 津	毎月第1土曜日
4	歴 史 研 究	色麻歴史訪ね歩き会	早 坂 一 郎	小栗山	定例会(偶数月), 現地調査等
5	茶 道	和あそびくらぶ	小野寺 透 江	二反田	毎月第2・3土曜日
6	手 工 芸	らくらく編み物教室	早 坂 志津子	下高城	毎月第2・4木曜日
7		らくらくパッチワーク	安 藤 きくみ	上 郷	毎月第1・3月曜日
8	ダ ン ス	色麻町レクダンス愛好会	篠 原 和 子	上高城	毎月第2・4土曜日
9		フラガールズ	本 田 みき子	下高城	毎月第1・3土曜日
10	体 操	太極拳クラブ	早 坂 順 子	南 大	毎週金曜日
11		エアロビクス	鈴 木 幸 子	宿	1月～3月毎週火曜日
12	舞 踊	新舞踊 藤枝会	島 田 登美枝	道 命	毎週日曜日(自宅教室)
13		宮城華僑華人同舟会「色麻組」	角 屋 雪	花川沢口	イベント前に練習日を 設定し、イベントに参加
14	着 付 け	和装研究愛好会	今 野 俊 子	王城寺	毎月第1・3火曜日
15	コーラス	女声合唱団Viente	千 葉 元 子	一の関	月2～4回金曜日
16	歌 謡 曲	カラオケ桃孝会	大 泉 和 子	新 田	毎月第1・3火曜日
17		やまびこ会	川 村 保 夫	一の関	毎週木曜日(自宅教室)
18	音 楽 教 室	ト音きごうの会	小川 きょう子	道 命	火～金曜日週1回(自宅教室)
19	パ ソ コ ン	色麻町パソコン愛好会	加 藤 頼 子	吉 田	毎月第2・4金曜日
20	レクリエーション	色麻町レクリエーション協会	中 島 まさよ	吉 田	毎月第3土曜日
21	川 柳	川柳クラブ「田園」	畑 山 護	大 原	毎月第3火曜日
22	自然アート	ビオトープ愛好会	加 藤 祥 文	宿	時期に合わせて活動
23	箏 曲	大道派色麻教室	大 泉 幸 子	新 田	月2回(曜日不定)

※入会を希望する方は事務局までお問合せください。

事務局：色麻町公民館 ☎ 65-3110

編集後記

文化協会副会長 小川 きょう子

新型コロナウイルス感染症対策のため、ここ数年「さなぶり芸能大会」「町民文化祭」を開催することができず、町民の皆様とお会いする機会がなくなり寂しく感じておりましたが、町文化協会会員一同、日々の練習や活動に励んでいます。今回「文化しかま」をご覧いただき、その様子を感じていただけたなら幸いです。

これまで、社会福祉の推進と文化芸術の向上発展を両軸に活動を展開してきた文化協会ですが、近年、会員の高齢化やコロナ禍での活動の制限も影響してか、各団体会員数の減少や文化協会加入団体の退会もみられています。既存団体を含め、美術、文芸、舞踊、音楽、民俗芸能など多彩なジャンルに多くの団体・サークルの加入で芸術文化の底上げをし、新たな一歩の踏み出しができればと考えていますので、入会・ご興味のある方は、ぜひお気軽に文化協会事務局(色麻町公民館内)までお問い合わせください。

次回は、ステージ上で、会場で、文化協会各団体の歌声・舞い・作品・笑顔を町民の皆様にお届けしたいと考えております。

末尾になりましたが、今回取材にご協力いただきました関係各位の皆様には心からお礼を申し上げます。

「創造力」と「想像力」が暮らしに息づく社会の実現を目指し、町民の文化活動の普及および保全を図り、幅広い情報発信に努めて参りますので、今後とも町文化協会をよろしく願っています。

編集委員

川村 保夫・相澤 玲子・小川きょう子・篠原 和子・小川ひとみ・今野 俊子・中島まさよ・早坂 順子